

情報通信審議会

IoT新時代の未来づくり検討委員会

第3回障害者SWG

社会福祉法人グロー

# 29年度総務省IoT創出事業採択事業 「障害者総合サービス:生涯を支える環境づくり」

## 事業概要

障害のある人は生涯にわたり何らかの支援・援助を必要としています。そのため家族だけでなく多数の機関・関係者が関わり、情報共有の必要性が極めて高い分野ですが、当事者の意思決定・確認が困難なことなどからIoT(およびICT)の環境整備が遅れている領域です。

本事業では、特に知的障害のある人を対象に『生涯にわたってサポートする』環境づくりを目的として、①『個人の物語』のパスポート化(成育及び支援情報履歴の蓄積)、②対象者の意思確認(意思決定支援)促進の仕掛けづくり、③障害のある人に関わる家族・学校・施設など生活全般で関係者が場面ごとに必要な情報を活用できる仕組みづくりについて実証しています。

## 実証エリア

滋賀県甲賀福祉(エリア)圏域(実証モデル事業を行い、その成果から全国普及できるかを検証)

## エリアの特徴

滋賀県は戦後まもなく戦災浮浪児・障害児の救済を目的に「近江学園」が設立され、以後障害児・者支援に長い歴史をもっています。その流れを受けて甲賀福祉圏域では、早くから障害のある人の地域就労や24時間対応型在宅福祉サービス事業が早くから整備されたエリアです。また障害者の地域生活を実現するための施策立案・調整を担う「地域ケアシステム」＝障害者自立支援協議会も早くから稼働しています。

今回の実証事業では、甲賀エリアで課題(全国的に同じような課題を抱えていると思われる)となっている以下3点について取り組みを始めました。

### 課題: 一般的にIT(及びIoT)環境整備が遅れている分野である。

#### ①情報履歴の蓄積が難しい

幼保・学校・施設・就労とライフステージの変化と共に関係(支援)機関が変化するため、一環した情報を蓄積することが難しい。

#### ②障害当事者の意思確認が難しい

障害特性により意思確認が難しい。当事者の意思表示・確認の手法の検討が必要。

#### ③関係者の経験則に依った対応が多い

当事者の個別性が重視され、対応や支援が関係者の記憶・経験・力量に依ることが大きく、記録が活かされにくい。

# Concept: みんなで支える (つむぐ) 物語



## ① (情報を) 貯めるIOT

『わたしの物語』パスポート化  
成育歴・生活履歴、検診・診療  
記録、福祉サービス利用履歴とそ  
の効果等の情報を『個人の物語』  
としてIoTを介して収集・蓄積する。  
この情報を活用して関係機関間  
の情報共有や不調・アクシデント  
への対応や予防、危険回避などに  
役立てていく。

## ② 伝えるIOT

表現支援・意思決定支援  
自らの意思や希望・要望、快・  
不快を表現しにくい人や行動サ  
インを出しにくい人に対して、セ  
ンサーやサイン・シグナル等の情  
報を蓄積・関連づけして、本人  
の思いを引き出す仕組みを検  
証する。(表現支援・意思決定  
支援)

## ③ 見守り・支えるIOT 支援サポート

生活の場(家庭や施設・グ  
ループホーム等)や活動の各場  
面で、バイタル情報等体調管  
理に関する情報が容易に取り  
出せる、日々の生活情報  
(ADL: トイレ回数・食事  
量・睡眠時間・着脱衣時間  
等)の変化を“サイン”で支援  
者に気づかせる。

# 障害者総合サービス:生涯を支える環境づくり

## 取り組み（実証事業）の概要

### ①貯めるIoT：『個人の物語』のパスポート化

今まで事業別にしか管理されてこなかった情報を、個人を単位で過去からの記録を網羅性をもって蓄積。このデータベースを基に、支援現場に活かせる検証と分析、さらに医療・介護分野との連携についても検討する

### ②伝えるIoT：対象者の意思確認（意思決定支援）促進の仕掛けづくり

### ③見守り・支えるIoT：支援者側での情報を活用できる仕組みづくり

重症心身障害（知的＋身体の重度障害）があり意思表示が難しい人に、カメラによる表情記録・身体動作記録・バイタル記録を時系列で蓄積して快不快・意思選択情報として活用できないかを検証中。自閉性障害で意思表示が苦手な人に、タブレットを活用して感情サインや意思（決定）選択を試行中。また睡眠が不安定な人の睡眠状態の測定を行い、活動の促しに活用できないか試行中。

今回の計測や試行で課題行動の事前察知が、どのケースで実用化可能かを確認する。



# USBカメラ



生活場面①  
グループホーム  
リビングに設置



作業・活動場面  
(障害福祉サービス事業所)  
に設置



生活場面②  
グループホーム  
居室に設置



一時預かりスペース  
(日中一時支援事業)  
に設置



## 心拍計 ※当事者の特性にあわせて2種類（腕・胸部）



## 活動量計（歩数計より精度が高く、車いす利用でも上肢の動きが計れる）



# 睡眠計



# 課題など

# 29年度総務省IoT創出事業採択事業 「障害者総合サービス:生涯を支える環境づくり」

## ルール整備①

情報蓄積に対するライフステージに関するルールの設定  
学童期、成人期などの情報蓄積に関して、管轄の違いによる障壁を越えられる相互的な情報公開に対する標準的なルールの整備。

## ルール整備②

データの一元化に向けた入力項目・提供範囲等に係るルールの整備（合意の促進）  
学校や施設など、指導・支援目的の異なるデータ項目についての取り扱いに関する分野を超えたルールの整備。

Concept: **みんなで支える（つむぐ）物語**



## 環境整備

障害者、特に重度知的障害者の  
基礎データの蓄積に関するプロ  
ジェクトが必要

今回の事業では時間的な制約から限られた施設で限られた対象者のデータしか分析できない。より効果的な検証を行うためには多くのデータの蓄積が求められるため、この実証モデルをさらに検証する全国規模のモデル事業の実施（プロジェクト）が必要。